

# 週 報

1990年2月18日 降誕節第8主日

巻 10 47号

1989年度教会主題

「神の言葉に従う」

聖句 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」……アブラムは主の言葉に従って旅立った。

創世記12章1節、4節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集會を守る。
  2. 新会堂の建築計画を完成する。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

会 堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13394

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-30A

電話 045-833-6616

牧師 禾大 吉 長 友作

## —牧師室から—

ある方から手紙をいただいた。洗礼を受けて間もないが、信仰を良くとらえ、それを生きようとする真摯な姿勢に心を打たれたので転載させていただく。

「日々、お祈りする中で少しずつではあるけれど自分の心が変わっていくのが分かります。今一番のお祈りは私を真実に生きられますようにと祈っています。おおげさなものではないけれど真実に生きられますようにと祈る時、私が私である事を確信させられます。そして、真実に生きようとする時に、自分の罪が見えてきました。……という人間のみにくさ、きたなさはどうする事もできない事実である事、私だけでなく人間は生きていだけで罪であるような気がします。ここにこうして座って

いるだけで罪のかたまりがあるような気がします。どこで、どうしていても真っ黒な自分である事は悲しい事です。それでも私は尚、神様に真実に生きられますようにと祈らずにはられません。神様が許してくれている事を信じて、生きたいと思います。神様を信じて、神様にしがみついて生きたいと思います。」

神の前に立つ時、真実な愛へと導かれる。しかし、それに破れている罪に否応なく気づかされ、苦しみただ赦しを願う。その中で赦しを確信する時、新たな真実な愛へと高められる。イエス・キリストの十字架と復活は、この罪の赦しと新生を約束する福音である。光がある所に陰が映る。罪が鋭く認識されている所に、神はおられる。肯定するのみの安撫な恵みや自分だけが真理に立っているかのような言葉には力はない。自分と社会の罪を深く懺悔するところではじめて自己変革ができ、又人の心に届く言葉となり得る。悔い改めが信仰の出発点である。